

はちのへビジョン 8.0（次期八戸市総合計画）の基本構想（案） に対するパブリックコメントの結果について

1. 実施期間 令和 8 年 8 月 20 日（木）から 9 月 18 日（金）まで
2. 意見提出件数 受理数：2 名
3. 意見・対応及び考え方

No.	
1	意見 今回の基本構想案では、人口減少や少子高齢化、地域経済の構造変化など、八戸市を取り巻く社会経済環境の変化を踏まえ、市民ニーズを的確に捉え、施策を機動的に展開していく必要性が示されております。 この認識は、今後の八戸市政にとって大変重要であり、計画の方向性として評価できるものと受け止めています。 一方で、総合計画は市の将来像を示す大切な計画であると同時に、今後の施策展開や予算編成にもつながる、市政運営の羅針盤となるものです。 そのため、夢や希望を掲げることに加え、市民生活に直結する重点課題を、基本構想の段階からよりわかりやすく示すことが重要であると考えます。 特に、防災対策、若い世代の定着、中心街の活性化、スポーツを活かした地域基盤整備、そして食のまち八戸を活かした地域経済や観光振興などは、市民の関心も高く、今後の八戸市の持続可能性に大きく関わる分野です。 総合計画においては、何を守り、何を変え、何に重点的に挑戦していくのかを、市民によりわかりやすく示していただきたいと思います。 また、計画策定に居当たっては、市民アンケートやワークショップ、策定委員会での議論に加え、市議会の本会議や各委員会等での議論も、市民の声を背景とした重要な政策議論であります。 市の担当者が議員や会派に対してヒアリングを行ったことは承知しておりますが、今後は、そこで出された意見について、基本構想案や今後の基本計画案への反映状況が分かる形で整理し、可能な範囲で示していただきたいと思います。 その際、反映に至らなかった意見についても、その理由や考え方が分かる形になれば、市民にとっても、計画策定過程の透明性が高まり、計画への理解と信頼につながるものと考えます。 総合計画が、策定委員会で重ねられてきた将来像の議論、市民アンケートやワークショップに寄せられた市民の思い、そして議会で積み重ねられてきた現実課題の議論をつなぎ合わせ、八戸市が人口減少時代をどのように生き抜いていくのかを市民と共有できる、実効性の高い計画となることを期待いたします。

	対応及び考え方	次期総合計画においては、先人が築いてきた豊かな自然や文化、産業基盤などの地域資源を守りながら、市民一人ひとりが関わり合い、ウェルビーイングを高めるまちづくりを進めるとともに、次の100年を見据え、食や若者の活躍など本市への誇りにつながる取組を進め、「八戸に居たい」と感じられるよう市政を推進してまいります。 なお、事務局案の策定に当たっては、議員の皆様からのヒアリングや議会でもいただいた御意見を踏まえて検討・反映しております。その反映状況が分かるよう資料を整理し、策定委員会にお示ししてまいります。
2	意見	【道について】 どこもかしこも歩道が狭すぎる。そして歩道の狭さの割に車道が広すぎる。例えば中心街ターミナル（スクエア）はいつ通っても横断歩道ではない場所で横断している歩行者を見かけるが、やはり市民も無意識でおかしいつくりだと感じているのではないだろうか。 あそこの車道は無くして歩道にすればいい。あるいは一車線だけ残してバスやタクシーなどの公用車限定の道路にする。残りを歩道にするだけで広々とした開放的な空間が出来上がるだろう。 とにかくどこもかしこも車が圧倒的優位な作りになっているため歩く気がまったくわかない。道は狭くて常に対面の歩行者を避けることに気を配らなければいけないし、車の音がうるさいうえ一部の横断歩道は長すぎる。歩いているだけでイライラする作りになっている。 例えば市役所の前の道路は無駄に広すぎる。その割に歩道は人一人か二人が通れるくらいの幅しかない。 また歩道が狭すぎるためかえって自転車走行もしづらくなっている。広い歩道にすれば歩道を走行できるようになる。 都会というのは大体道が広い傾向がある。その方が市民がストレスを感じづらいため自然にそういう風に作りたがるのだろう。車道を封鎖すればいいだけなのでコストも特にはかからない。これは早急にやるべきことだと思っている。 またそうすることによって、店の前にテラス席を作ることができる。これはおしゃれな街並みを作るのに非常に効果的です。 全体的に色の変化に乏しいのも退屈を誘う大きな理由であり、例えば一つの道路は寒色あふれる青色で塗り、暖色あふれるオレンジ色の街灯を立てるだけで景観は大いに刺激的になると思います。 また通りにある店内の色もオレンジにすることでそこから外に漏れてくるオレンジ色が温かみの演出に一役買うだろう。 人は、街を歩いている時、前後左右上下の凹凸と色の変化が短時間に定期的に来なければ飽きてしまう。

	上海やパリのように曲がりくねっていたり、適度に階段が頻繁にあった方が歩いていて刺激的に感じます。 (https://www.youtube.com/watch?v=hY3a2h-ktnk) (https://www.youtube.com/watch?v=6BPuGeS604w) 車の通りが多いと言うだけで歩行者を主導権の心理を阻害し、人々の自立心、自尊心を低下させると私は思っている。 道を主導者を車から人へと転換させるモダンな方法として、バルセロナのスーパーブロックがあります。 (https://globe.asahi.com/article/15156873) (https://newtown-sketch.com/blog/20221106-33159) (https://kpmg.com/jp/ja/insights/2025/03/barcelona-diverse-mobility.html) 上の引用（三つ目）にも書いている通り、道路を減らすことでその分の面積を公園の施設に回すことができます。 シェアサイクルがないのも観光客にとって不便です。 ゴミも少なくないため、ゴミ箱増やすか、最悪の場合ポイ捨てを罰金化する必要があるだろう。 図書館の図書館側の駐車場は狭くて使いづらいため必要ない。あれは消していいと思う。 「歩きたくなる街」を目指して開発していったほしいと思う。 【街の緑化と日陰作り】 下の画像のように街に日陰を作ってください。暑い夏の日に非常に役立ちます。 ・画像1 この画像はソウルのものですが、ソウルでは街に日陰を作る大々的な取り組みをしています。 (https://ideasforgood.jp/2026/09/09/seoul-right-to-shade/) ちなみに神戸でも似たような取り組みをしています。 (https://kobe-sdgs.jp/greenhub_project/kokage) 緑化は単に街の体感気温を下げるだけにとどまりません。 緑豊かな町はクリーンな景観で非常に好印象を与えます。例えば次の動画を見てください。 (https://www.youtube.com/watch?v=may-TPFWbwI) これは中国の成都市動画ですが、このように緑豊かな街は非常にクリーンな印象を与えます。コメント欄を見てもわかる通り、この種の空間は多くの人の憧れです。 しかも街に樹木が多いと健康効果があるという研究結果もあります。
--	---

(<https://wired.jp/article/urban-tree-canopy-loss-linked-to-higher-mortality-chicago/>)

ソウル市内の漢江ではコンクリートから樹木への転換がなされており、20年かけて300万本以上の木が植えられました。

(https://x.com/Mid_observatory/status/2100162036273651891)

”引用

@KBYSScotland

ここ数年韓国、特にソウルの都市政策をフォローしてるんだけど、住む人のいわゆる wellbeing の向上を意図したものが多くてとても良いと感じる。

で、調べてみたら、「過去40年ほどで急速な経済成長を達成したのに、激しい競争社会、急速な少子高齢化、そして孤立化といった深刻な社会課題に直面し、幸福指数が低い」という状況に陥り、その解決に幸福増進を法制化し（Happiness Legislation）、大規模な予算を重点配分してインフラ化する、という計画的かつ意図的なプロセスで実行されているという。最近話題の読書スペースや、自宅から徒歩5分以内にアクセスできる緑地や庭園の増設、「便利なハイテク都市」ではなく、「弱者と同行するスマートシティ（AIを活用した孤独死を防ぐ見守りシステムなど）」などがその例。データによる課題発見、課題解決を法制化、予算配分で実行、という公共政策のお手本のような取り組みが行われているようだ。

”引用ここまで（Xより）

森の中の街というのは市民からの好感、実利と美的、両方に益が大きいです。成都市を参考にして街づくりを構想してみしてほしい。

今の市長は中心街に集積する思想らしいが、正直うまくいっていないし、そもそも集積は巡り巡って市全体を腐らせるためあまりよろしくないと思う。定期的に市全体に木や花を植え市全体の緑化に努めてほしいと思う。

【公用車のデザインがダサイ】

バスやタクシーのデザインがださい。青色にしろ黄色にしろもっと彩度の強い色でないといけない。

こういうように

- ・画像2、3（モスクワ・トロリーバス）
- ・画像4（ヤンデックス タクシー）

【街内に本や教養を】

- ・画像5
- ・画像6

上の画像は電車内の様子です。とても本を身近に感じられる良い取り組みです。

	ソウルでは野外図書館といった取り組みされています。 ”引用 @nageune31 韓国の野外図書館。観光客も参加できるので、渡韓した時に体験してみてもいいだろうか。 ～HP の案内文～ 2026 年の「ソウル屋外図書館」は、ソウルの都心にある広場や水辺の空間を、本と文化が流れるオープンな空間へと変えるソウル市の代表的な読書プラットフォームです。4 月から 11 月まで運営され、夏の猛暑期である 7 月と 8 月は休場します。それぞれ異なる魅力を持つ 3 つの拠点で体験することができます。 ①本読むソウル広場（ソウル市庁前広場）...カラフルなビーズクッションに寝そべり、空を見上げながら本を読める空間です。子どもと一緒に訪れやすい 30～40 代のファミリー向けエリアや、プレイゾーンが用意されています。 ②光化門（クァンファムン）本マダン（光化門広場）...北岳山（プガクサン）を背景に、インディアンテントやキャンピングチェアで「ブックカンス（本＋バカンス）」を楽しめます。友人や恋人同士で、都心のオアシスのような雰囲気を味わうのに最適です。 ③本読む清らかな小川（清溪川一帯）...清溪川（チョンゲチョン）の水音を聴きながら、静かに本の世界に浸れる思索の空間です。周辺の会社員や外国人観光客に高い人気を誇ります ★利用案内および時間区分...毎週 金・土・日曜日/運営時間 11:00～22:00（弾力的に運営）7 月～8 月...猛暑および雨季のため休場 屋外図書館であるため、気象状況（雨天、猛暑など）や広場のイベント日程によって、運営が流動的に変更または中止となる場合があります。訪問前に必ずソウル屋外図書館の公式ホームページや、各拠点の Instagram で当日の運営状況を確認することをおすすめします。 ★主要プログラム本の貸出だけでなく、多彩な文化プログラムが毎週開催されます。 ・夜の図書館&月光ロマン劇場...涼しい夜風とともに映画を上映する夜間読書プログラムです。 ・ヒップな読書没頭...デジタルデトックスをしながら、みんなで一緒に静かに本へ没頭する時間です。 ・活字記録所...タイプライターの前に座り、心に残った本の中の一節を自分で打ってみる体験です。もし、今週末に訪問してみたい特定の拠点や、参加してみたい文化プログラム（映画、ジャズ公演など）はございますか？おっしゃっていただければ、該当のスケジュールや参加方法をさらに詳しくご案内いたします。
--	---

	HP https://seouloutdoorlibrary.kr/user/main/mainIndex.do ”引用ここまで (X より) (https://www.youtube.com/watch?v=TGeey0Csr6U) また野外の休憩場所が非常に開放的でリラックスした場所があります。 (この動画の六分ごろから) (https://www.youtube.com/watch?v=Uei_wn4qxoQ&t=360s) 場所さえあればそこまで費用をかけずにできるでしょう。 対内というよりもむしろ対外に対する魅力のアピールポイントとなる。 格言やことわざ、詩や数式を街中に展示するのもいいと思われる ・画像 7 (韓国地下鉄のホームドアに書かれた詩、らしい) 【老若男女の転職、起業したい人のための技能獲得学校】 街から離れる理由として最も大きいのが仕事がないからです。 ステップアップによる収入アップや起業を促すために分厚い教育ストック が必要です。 基本的に学費は無料が望ましく、試験も必要ないならなしで入学者は抽選で 選べばいい。 また年齢の制限も無しで、何歳でも受講できるようにする。 ただし仕事をしている人は平日には来れないため、土日受講する形も必要 です。 それならば現役の社会人だけでなく小学生でも受講できるようになります。 学位のあるなしは今時あまり重要ではなく、明確に収入が上がり、企業から引 く手数多の就職、転職ができることが重要です。 明確に企業との関係を持って、卒業後の進路が明確になっていることが望ま しい。 これは学生に利点があるだけでなく、この教育機関が企業との連携を自然に 取れるという点でも利点があります。 つまり企業が必要な人材の教育を開校してくれるのが期待できます。 ジャンルは多種多様だが、特に技術系の教育を手軽に受けれるような環境整 備が必要です。それが雇用を増やす効果を与えるだろう。 【金属の精製技術の教育】 銅、リチウム、レアアースといった金属資源は次の石油とも呼ばれるくらい 重要な資源です。 これを産業に利用するには精製技術は必須である一方簡単には真似できま せん。 すでに中国が圧倒的トップに立っている市場だが、いまからでも遅くはない
--	---

かもしれない。

【大学の少なさ】

また高校卒業後の行先の選択肢が少なすぎるのも問題である。

半分は大学に進学すると思うが、大学の数が少なすぎる。特にエリート層が行く場所が存在しない。

高校までエリート層を教育させておいて、卒業後は外へとみすみす放出しているのはうまい環境とは決して言えない。

エリート養成校となる大学を創設すべきだろう。

【数学や科学への興味】

数学や科学へと早い段階から興味を持ってもらうために、小学生や中学生、高校生に無償で数学や科学の知的好奇心を誘う本を配るべきだろう。

具体的には、「数の悪魔」(H. M. エンツェンスベルガー)、「解きたくなる数学」(佐藤 雅彦、大島 遼)、「フェルマーの最終定理」(サイモン・シン)

まあ、あるいはブルーバックスなどから選んだ選りすぐりの書籍リストを作り、その中から一冊を選んでもらいそれを提供する形でもいいだろう。

そもそも興味を持ってもらわなければ理系の分野に進まないか、進んでもモチベーションがわからないため、これは重要な取り組みだと思います。

【自治体の服装】

自治体の人間は普段スーツで仕事していると思うのですが、これを私服制に変更してください。

別にスーツだから仕事の生産性が高まるということもないでしょうし、一般の大衆からの印象がおそらく良く映ります。

小さな点ですがこういうところから改革する価値はあります。

【お見合い制度の推進】

周知のとおり最近結婚率が下がっています。お金の問題が一番に言われるが、実際にはハンガリーは大々的な資金援助をしても効果がでませんでした。

まあ、お金も要因の一つなのは正しいのかもしれないが、それ以外にもそもそも相手がいないというのもあるだろう。

単に良い相手がいないというのであれば正直どうしようもないが、今まで出会いの場が無かったから相手を見つけられない人も少なくない。

ほとんどの人は学校を出ればもう恋愛相手を見つけるのは極端に難しくなります。

したがって自治体がお見合いという半ば強制的に相手を見つけ出させる制度に取り組む必要があります。

	自治体の管理の下でサービスを展開するだけでなく、企業にもその社員にお見合いを進める取り組みに協力してもらおうとなおよいだろう。 結局のところ人口が無ければ衰退するほかなく、出生数が上がらなければほかの地域との取り合いになるにすぎない。 内部から人口を増やす取り組みとして、古いかもしれないが半ば強制的な方法を取る段階へと入った方がよい。 【地域企業への援助】 地域の企業を利得付き援助する方法があればよい。 まあ株式を発行しているのならそれが一番良いが、ないのであれば企業の利益と市民からの援助額に対して配当を与える仕組みを作れる必要がある。 無論アプリで手軽にできるのが必要条件だ。 【その他】 基本的に、どのようなことであってもオープンでリベラルな気質の方が好ましい印象を与えます。 最も重要な点として、今の市にはどのような街でなければいけないのか（どのようなことができる、よりも）、という哲学が必要です。 良いビジョン無しに良いものを作るのは難しいです。東京やパリ、上海、深圳のような世界最先端の街の知識を持っている必要があります。 特に美的感覚にあふれていることが重要です。関係者だけでなく、外部からも良い人材を探しぬいて協力してもらう必要があります。 そのような人材がいらない中で考えていてもどこにでもある平凡な街ができるにすぎません。本気で街を開発したいなら最も良い街を作る意識でなければいけません。 基本構想に朝市や横丁が魅力だと書いているが、それながらそこやその周辺は真っ先に美的感覚にあふれた開発をするべきだろう。 また、Decidimのような政策において市民と自治体を結ぶ専用のフォーラムを作った方がよい (https://www.code4japan.org/activity/decidim) (https://globe.asahi.com/article/15036219) トレッドミルの上で止まっていればどんどん後ろへと動かされるだろう。変化しなければ下へと変化する。私はこの街に20年以上住んでいるが、20年前と何も変わっていないように見える。それは恥ずべきことであり、今すぐに意識を変える必要があります。 それから港を拡大させてさらに利益を広げられませんか？ 輸出入のほとんどは港を経由して行われます。 港を拡大が利益の拡大になるのなら市が投資援助をしてもよいだろう。
--	--

対応及び考え方	基本構想は、当市の将来都市像やまちづくりの理念を示すものであるため、いただいた個別・具体的な取組に関する御意見については、今後の取組を検討する際の参考とさせていただきます。
----------------	---

画像 1



画像 2



画像 3



画像 4



画像 5



画像 6



画像 7

